

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

2月10日に祝津ホタテ養殖漁場のホタテ部会の試験用桁に垂下した試験籠（5月12日垂下）への付着状況を確認しましたが先月の41個体から94個体へと増加しました（図1）。付着サイズは平均60.9mm（最大98.1mm、最小25.8mm）と先月よりも大型化しましたが、同時に25mm以上30mm未満の小型個体も確認されました（図2）。2019年度の3月（2020年3月）にも付着数の増加が見られていることから、秋から初冬にザラボヤの新規付着の多いタイミングがあり、それが成長して目視可能なサイズになることで、この時期に籠の付着数の増加として確認されるのではないかと考えられます。

ザラボヤ付着器には付着は確認できなかった（表2）ことから、12月中旬から1月中旬ごろに籠への新規の付着はほとんど無かったものと考えられます。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ	
				個	個/トッ
ホタテ部会の 調査桁	0~30m	6.4~6.6	0.13~1.06	未調査	

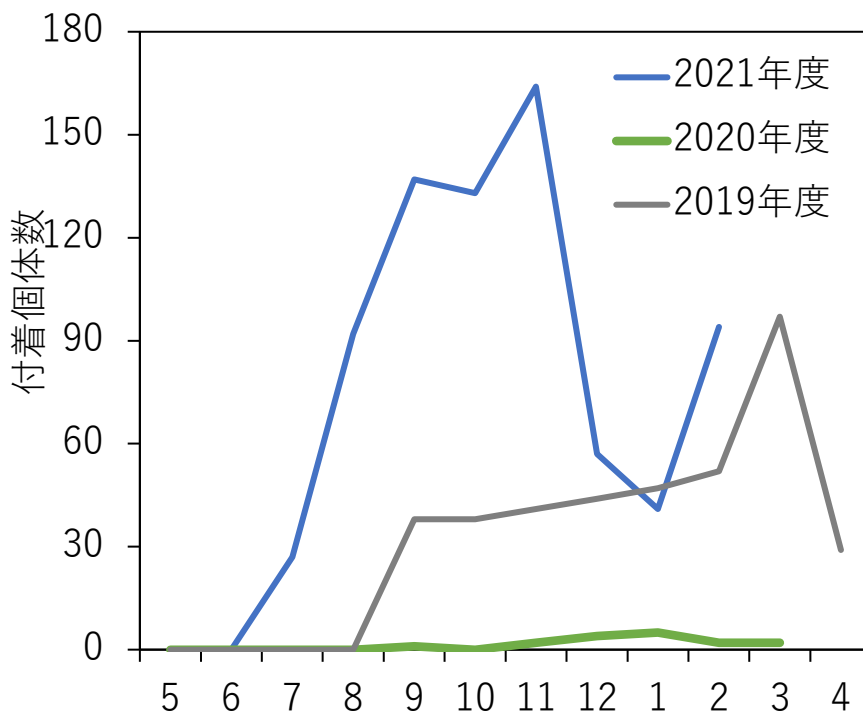


図1：籠へのヨーロッパザラボヤの付着数の変化

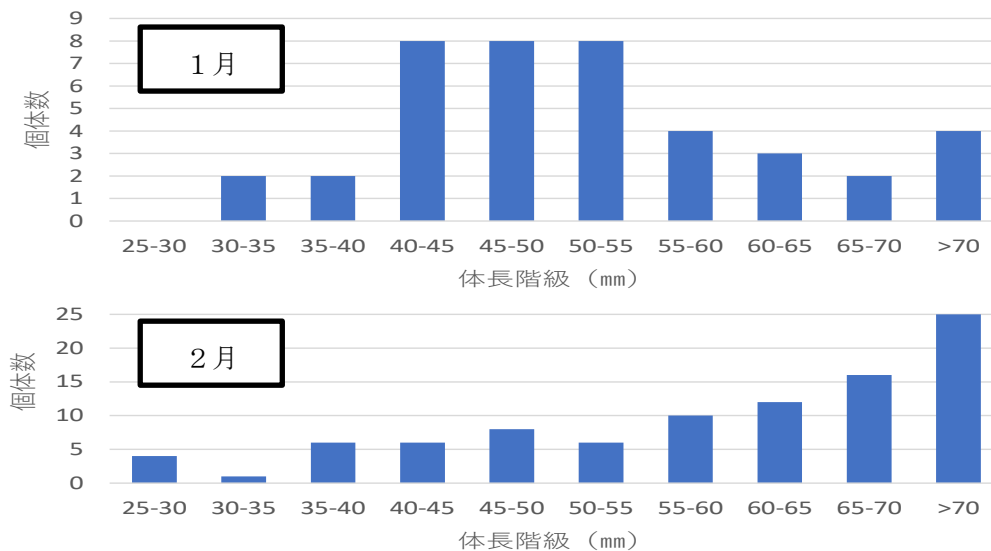


図2：体長階級別ザラボヤ付着個体数（上：1月、下：2月）

表2：ザラボヤ付着器への付着数

設置	回収	付着数
5月12日	7月14日	21
6月16日	8月6日	0
7月14日	9月15日	1
8月6日	10月7日	0
9月15日	11月18日	3
10月7日	12月10日	0
11月18日	1月6日	0
12月10日	2月10日	0

写真1 ザラボヤ付着器



【参考資料】

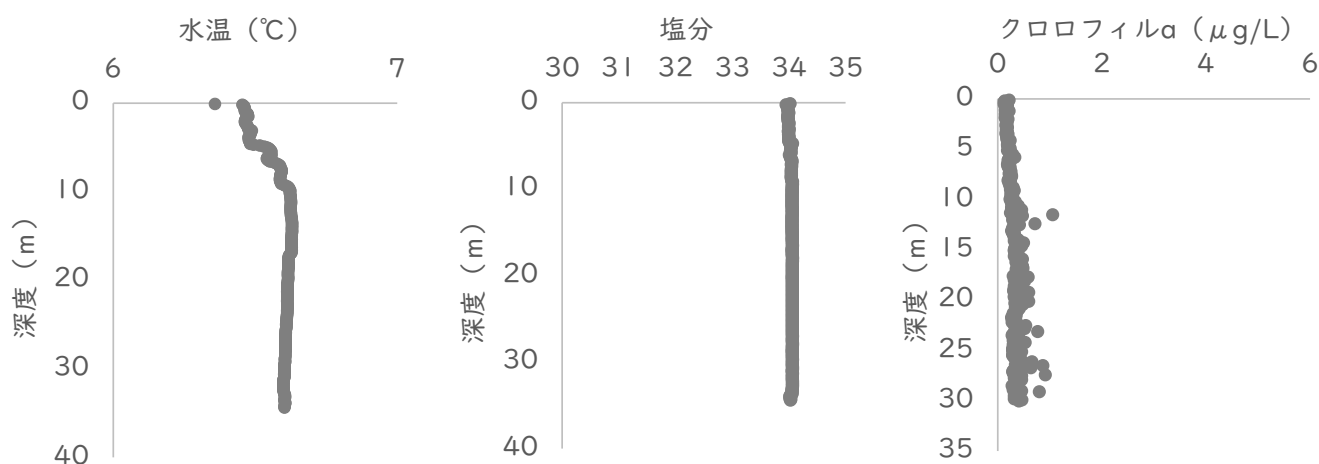


図3：ホタテ部会調査桁の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布（2月10日）

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します（次回調査：3月中旬に実施予定）。
 ※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>